

# 2019年3月期第3四半期 決算説明資料

2019年2月8日（金）

株式会社 **力ネカ**

# 目 次

---

業績概要	1
四半期別 売上高・営業利益	2
セグメント別 売上高・営業利益	3
事業概況	4
貸借対照表	8
業績予想の修正	9
株主還元の強化	11
重点注力分野	12

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

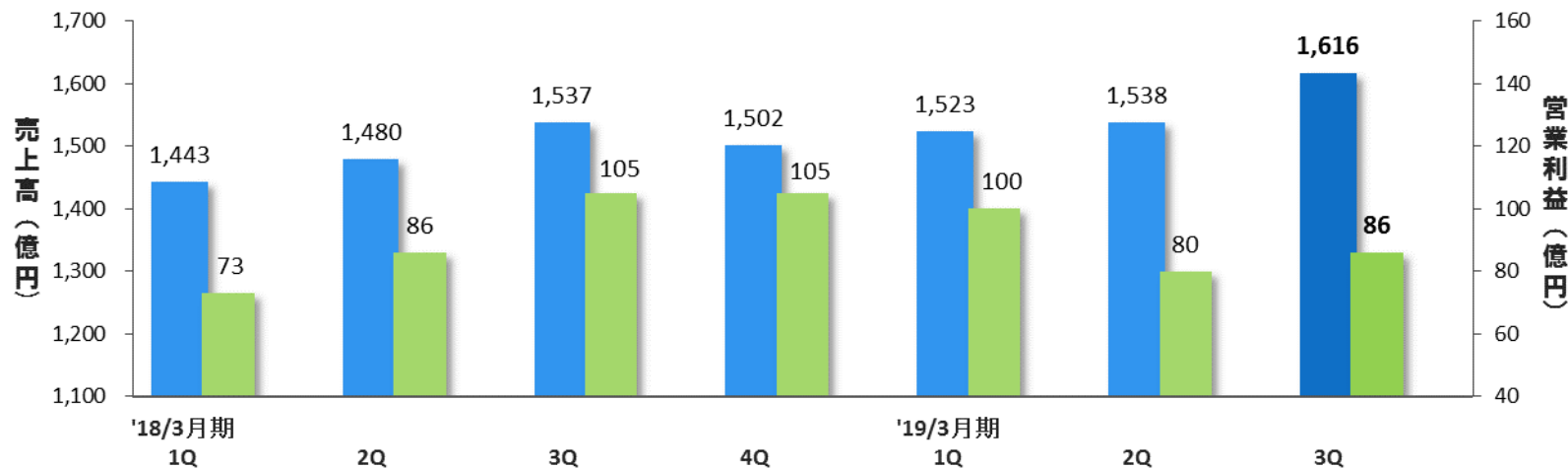
(単位：億円)

	2018年3月期 3Q累計	2019年3月期 3Q累計	増減	
			金額	%
売上高	4,459	4,676	217	4.9%
営業利益	264	266	3	1.0%
経常利益	243	229	△ 14	△5.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	157	147	△ 11	△6.7%
1株当たり四半期純利益	239.43円	223.90円		

(注) 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。1株当たり四半期純利益は、株式併合後の株式数で算出しております。

- 10～12月期の世界経済は、米国の保護主義的な政策に端を発した貿易摩擦の激化に加え、中東、東アジアに限らない世界的な地政学的リスクについての懸念が広がり、中国発の深刻な景気の調整局面が表面化
- 企業心理は後退し、上流から下流に至る広い範囲で流通在庫圧縮のための生産調整が始まった
- 当社業績は売上高はグローバル事業が牽引し、過去最高を更新、営業利益も増益となった
- 経常利益、純利益は製造力強化工事を実施したことにより減益となった

# 四半期別 売上高・営業利益



(単位：億円)	2018年3月期				2019年3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	1,443	1,480	1,537	1,502	1,523	1,538	1,616
営業利益	73	86	105	105	100	80	86

- 第3四半期の売上高は、過去最高の1,600億円超となり順調に伸びている
- 営業利益は、第2四半期の自然災害による影響は解消したが、米中の貿易摩擦を含め、世界的経済の減速の影響を受けた

# セグメント別 売上高・営業利益

(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	2018年3月期 3Q累計	2019年3月期 3Q累計	増減		2018年3月期 3Q累計	2019年3月期 3Q累計	増減	
			金額	%			金額	%
Material SU	175,192	191,126	15,933	9.1%	18,871	19,623	752	4.0%
Quality of Life SU	115,116	119,632	4,515	3.9%	11,615	11,804	188	1.6%
Health Care SU	32,787	35,093	2,305	7.0%	6,618	7,352	734	11.1%
Nutrition SU	121,950	120,954	△996	△0.8%	4,657	4,077	△579	△12.5%
その他	884	809	△74	△8.4%	441	371	△69	△15.7%
調整額	-	-	-	-	△ 15,848	△ 16,609	△760	-
計	445,931	467,615	21,684	4.9%	26,355	26,619	264	1.0%

※SU : Solutions Unit

<b>Material</b>	Vinyls and Chlor-Alkaliは塩化ビニル樹脂及び塩ビ系特殊樹脂の国内販売は堅調 Performance Polymersは用途拡大が進むとともに生産能力増強が寄与し、業績は拡大
<b>Quality of Life</b>	Performance Fibersはアフリカ市場における頭髮分野の需要回復により業績回復 E & I Technologyはスマートフォン高機能化に伴いシェア拡大するも、足もとでは、 一時的な市場減速の影響を受けた Foam & Residential Techsは自然災害の影響を受けた
<b>Health Care</b>	Medical Devicesは海外市場での販売が拡大し、国内の償還価格改定の影響をカバー Pharmaはバイオ医薬品の販売が順調に拡大
<b>Nutrition</b>	Foods & Agrisは製菓、製パン市場の低迷が継続する中、提案型営業で需要喚起 Supplemental Nutritionは還元型コエンザイムQ10の販売が米国市場を中心に増加

売上高

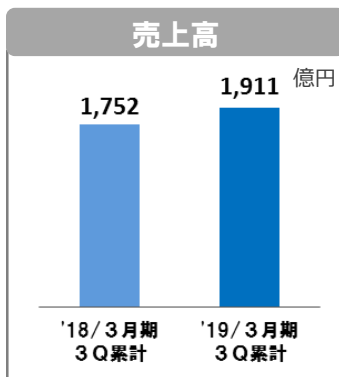
1,911億円 (対前年同期 9.1%増)

売上高構成比

40.9%

営業利益

196億円 (対前年同期 4.0%増)



## Vinyls and Chlor-Alkali

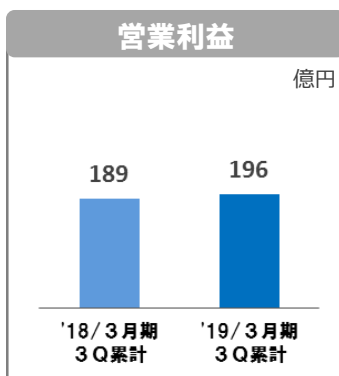
- 国内販売は塩化ビニル樹脂及び塩ビペースト樹脂などの塩ビ系特殊樹脂が堅調に推移したが、海外市場は減速
- か性ソーダの輸出はインドの認証取得問題の影響を受けたが、国内は好調で収益に貢献

## Performance Polymers

- モディファイヤーは非塩ビ向けなどの用途拡大が進み、堅調な販売で業績は大きく拡大
- 変成シリコンポリマーは世界オンリーワンプロダクトとして需要がグローバルに拡大しているなか、マレーシア新設備が本格的に寄与し、今後、2019年1月に稼働したベルギーの能力増強設備が収益に大きく貢献
- エポキシマスターバッチは自動車向け構造用接着剤などの採用が進み販売が拡大しており、能力増強を決定
- 航空機・宇宙産業向け複合材の事業展開をスピード感を持って進めていくため、次世代先端技術素材としてプリプレグの生産設備を新設

## 新規事業

- 能力増強を決定した生分解性ポリマー-PHBHは、欧米市場で使い捨てプラスチックの規制が強化されるなか、海水中でも生分解する素材であり、社会的な問題となっているマイクロプラスチック問題へのソリューションとして大手顧客との大型プロジェクトが進んでいる
- 2019年1月には欧州委員会でドライフード用途の食品接触材料として認定され、果物・野菜袋用途に加え、ストローやコップ、トレーなど幅広い用途での採用検討が進展
- 今後の需要拡大に向け、本格量産プラントの検討を急ぐ



売上高

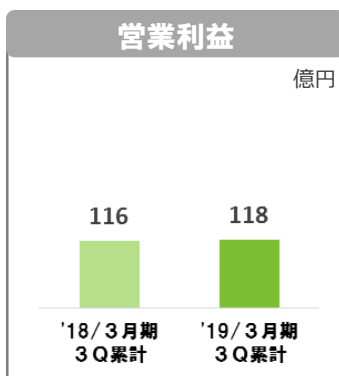
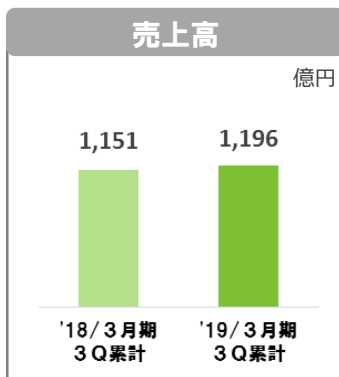
1,196億円 (対前年同期 3.9%増)

売上高構成比

25.6%

営業利益

118億円 (対前年同期 1.6%増)



## Performance Fibers

- ・ アフリカ市場における頭髮分野の需要が本格的に回復
- ・ 高機能頭髮としてのブランド力を強化し、アフリカ及びその他市場で需要開拓を進めており、業績が大きく回復、拡大
- ・ 難燃分野は欧米での作業服向け需要が旺盛であり、販売が拡大

## E & I Technology

- ・ 超耐熱ポリイミドフィルムは、スマートフォンの高機能化に伴いシェアを伸ばしているが、足もとでは一時的な市場減速の影響を受けた
- ・ 有機ELディスプレイ向けポリイミドワニス、5Gスマホ向けピクシオ新規グレードなど市場の変化に対応した新製品を迅速に提供

## Foam & Residential Techs

- ・ 発泡ポリスチレン樹脂及び押出法ポリスチレンボードは、台風、地震などの影響による漁獲量減少、土木・建築工事遅れに伴う需要低迷の影響を受けた
- ・ ビーズ法発泡ポリオレフィンは、グローバルな供給体制強化に向けて、タイ工場の立ち上げ、ベルギーでの能力増強を進めており、さらに新プロセス導入により事業基盤の強化を進める

## PV & Energy management

- ・ 高効率太陽電池の市場評価が高く、販売は順調に伸びており、フル稼働。需要拡大に対応すべく増産を準備中。構造改革の進展と合わせ収益力が改善
- ・ 新しいアプリケーションとして窓や壁が発電するユニークな太陽電池が住宅やビルのゼロエネルギー・マネジメント・システム素材として注目を集めている
- ・ 世界的なエネルギー問題に対するソリューション事業として強化

売上高

351億円 (対前年同期 7.0%増)

売上高構成比 7.5%

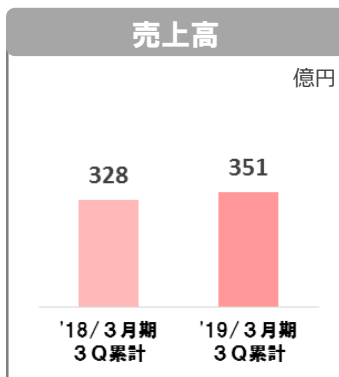
営業利益

74億円 (対前年同期 11.1%増)

## オープンイノベーションによりポートフォリオ変革が前進

### 売上高

億円



### Medical Devices

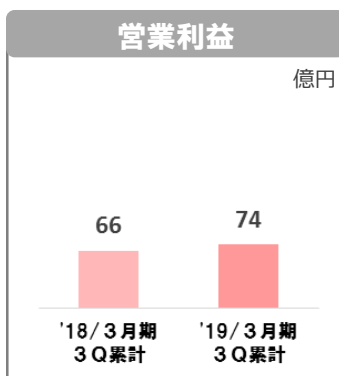
- ・ 高機能バルーンカテーテルや消化器用カテーテルなど新製品の販売が順調に進み、海外市場での販売が拡大し、国内における償還価格改定の影響をカバー
- ・ 技術・業務提携で獲得したMed Alliance社の薬剤を塗布したバルーンカテーテル技術や電極カテーテル技術に加え、新たに米国の医療機器会社と資本・業務提携し、血流測定機器など新規医療領域での事業拡大を進める。

### Pharma

- ・ カネカユーロジェンテック社のバイオ医薬品の販売が順調に拡大
- ・ 生産能力増強工事は計画通りに進んでおり、大手各顧客とのプロジェクティブな活動を強化し、稼働後の業績拡大を確実に進める
- ・ カネカシンガポール及び大阪合成有機化学研究所に導入したAPI・中間体製造用途の連続生産設備は市場評価も高く、低分子医薬品分野の軸となる新技術であり、Pharma分野で総合的な事業拡大を加速

### 営業利益

億円





売上高

1,210億円 (対前年同期 0.8%減)

売上高構成比

25.9%

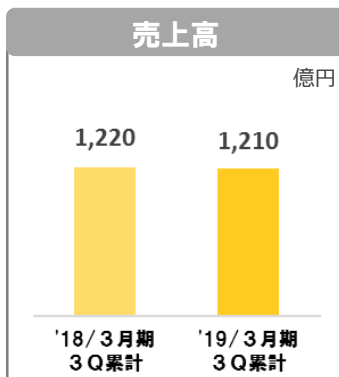
営業利益

41億円 (対前年同期 12.5%減)

## オープンイノベーションによりポートフォリオ変革が前進

### 売上高

億円

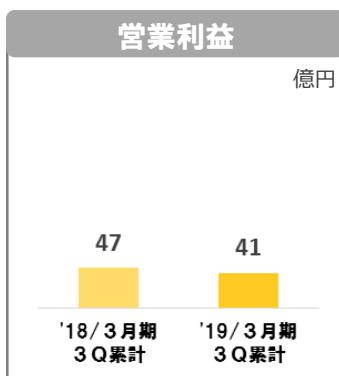


### Foods & Agris

- ・ 製菓・製パン市場の低迷が継続するなか、大手製パン、コンビニエンスストアや食品メーカーへの積極的な提案型営業による需要喚起を進めた
- ・ インドネシアで加工油脂の新工場建設（投資総額 約50億円）を決定し、日本の美味しいパン・菓子文化を広めて、インドネシア市場の拡大を本格化させる
- ・ 新たに参入した乳製品事業では、「パン好きの牛乳」が好評価（コクがあるのに後味スツキリ）を得ており、牛乳に加えて発酵バターの販売も開始
- ・ 今後、デジタル・ネット通販などのマーケティング活動も強化し、ヨーグルトなど新たな乳製品のラインアップを充実させ、市場開発を加速させ、本格的な新工場の建設の検討を急ぐ
- ・ 食料生産支援事業と組み合わせ、酪農家の生産性向上や循環型酪農の発展に貢献

### 営業利益

億円



### Supplemental Nutrition

- ・ 主力の還元型コエンザイムQ10の販売が米国市場を中心に引き続き増加
- ・ 昨年グループ会社化（出資）したスペインの乳酸菌会社の乳酸菌サプリメント素材はヨーロッパ市場での販売が拡大しており、早期に米国、日本での販売をスタートさせる検討を始めた
- ・ 今後、品揃えを充実しつつ、グローバルに事業を拡大

(単位：億円)

	2018年3月末	2018年12月末	増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	3,063	3,145	82
固定資産 等	3,335	3,377	42
資産合計	6,398	6,522	125
<b>負債の部</b>			
有利子負債	1,131	1,179	48
その他	1,800	1,815	15
負債合計	2,932	2,995	63
<b>純資産の部</b>			
自己資本	3,262	3,315	53
非支配株主持分 他	204	212	8
純資産合計	3,466	3,528	62
<b>負債、純資産 合計</b>	<b>6,398</b>	<b>6,522</b>	<b>125</b>

- 積極的な設備投資継続による有形固定資産の増加や、売上高増加に伴い、たな卸資産が増加したことにより総資産が増加した

- 中国発の景気後退が世界的に波及し経済成長が減速するリスクが増している
- 当第3四半期の業績（Foods、Foamにおける自然災害の影響やE & Iでの一時的な市場減速による売上高及び利益の計画比減少等）と、今後の経済環境の不透明さを勘案して、連結業績予想を修正する

## ○2019年3月期 通期連結業績予想

（単位：億円）

	前年実績	前回予想 (5/11)	今回修正予想	増減	
				対前年	対前回予想
売上高	5,961	6,500	6,250	289	△ 250
営業利益	369	420	370	1	△ 50
経常利益	328	370	330	2	△ 40
親会社株主に帰属 する当期純利益	216	230	220	4	△ 10
1株当たり当期純利益	328.46円	350.91円	335.60円		

※ 2019年3月期 第4四半期以降の為替レート、原料価格は、110円/米ドル、125円/ユーロ 国産ナフサ価格40,000円/KLを想定しております。  
 ※ 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。1株当たり当期純利益は、株式併合後の株式数で算出しております。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

# 業績予想の修正(セグメント別)

(単位：億円)

	売上高			営業利益		
	前年実績	今回修正予想	増減	前年実績	今回修正予想	増減
Material SU	2,389	2,590	201	271	261	△ 10
Quality of Life SU	1,494	1,570	76	137	152	15
Health Care SU	459	470	11	98	102	4
Nutrition SU	1,609	1,610	1	65	57	△ 8
その他	11	10	△ 1	5	5	△ 0
調整額	-	-	-	△ 209	△ 207	2
<b>計</b>	<b>5,961</b>	<b>6,250</b>	<b>289</b>	<b>369</b>	<b>370</b>	<b>1</b>

※SU : Solutions Unit

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

- ①増配（予想修正）： **創立70周年記念配当10円（年間90円→年間100円）**
- ②自己株式取得： **40万株（取得額上限20億円、取得期間2019/2/12～3/22）**  
**2015年3月期から継続的に実施し、総還元性向約40%を維持**
- ③自己株式消却： **200万株**

（単位：百万円、千株、円/株）

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期 修正予想	2019年3月期 株式併合後 ベース※
当期純利益	18,033	20,985	20,484	21,571	22,000	22,000
1株当たり純利益	53.52	62.98	61.72	65.69	67.12	335.60
1株当たり配当	16	18	18	18	20	100
配当性向	29.9%	28.6%	29.2%	27.4%	29.8%	29.8%
自己株式取得数	2,000	1,964	2,000	3,000	2,000	400
自己株式取得額	1,594	1,805	1,803	2,561	2,000	2,000
総還元性向	38.7%	37.2%	38.0%	39.3%	38.9%	38.9%
自己株式消却数	—	—	—	—	10,000	2,000

※当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。

- 自動車や航空機分野において高まる軽量化ニーズに応える素材
- 構造接着剤・複合材の原料としてグローバルに拡販を推進

## エポキシマスタースタック

- エポキシ樹脂の耐熱性を損なうことなく、靱性や耐久性を向上させる
- 自動車構造接着剤、風力発電の羽用接着剤、銅張り積層板（CCL）向け販売拡大
- 自動車部材の素材変更により、溶接→接着へ変化 構造接着剤の使用部位・車種が拡大
- **販売拡大に対応して能力増強を決定**



## 複合材

- 航空・宇宙分野における高機能複合材ビジネスへ参入  
2017/6：複合材樹脂配合メーカー買収  
2018/1：ヘンケル社より航空機用複合材事業を買収  
2018/8：航空機向けプリプレグ生産設備の新設決定
- 2025年には売上高200億円を目指す



### Kaneka Aero Spaceの事業範囲



# 重点注力分野(生分解性ポリマー)

## プラスチックの廃棄物による

- ・ 陸上汚染
- ・ 海洋汚染  
(マイクロプラスチック問題)



## ▶ 欧州をはじめプラスチックへの規制を強化

- バイオと樹脂（配合・加工）などの技術の融合により  
100%植物由来の生分解性ポリマー「カネカ生分解性ポリマー-PHBH<sup>TM</sup>」を開発
- 能力増強 (1,000t/Y → 5,000t/Y → 20,000t/Y)

2019年12月  
稼動予定

早期立上げを  
検討中

## ○ 認証取得状況 (植物由来・生分解性)

認証機関	植物由来	生分解性			
		コンポスト (産業用)	コンポスト (家庭用)	海水	土壌
TÜV	○	○	○	○	○
BPI	—	○	—	—	—
JBPA	○	○	—	—	—

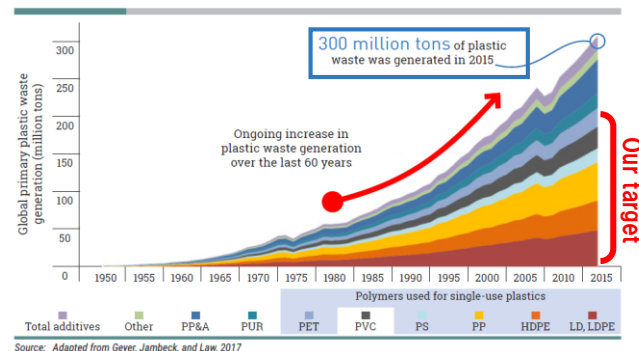
TÜV: TÜV AUSTRIA BELGIUM  
BPI: Biodegradable Products Institute (U.S.)  
JBPA: Japan BioPlastics Association

## ○ 認証取得状況 (食品接触)

国	食品接触
米国	○
欧州 (EU)	ポジティブリスト (ドライフード) 収載 (2019/2)
日本	手続中

※全ての食品に対して使用できる手続きを進行中。  
欧州食品安全機関安全評価終了。秋以降、食品接触  
用途で採用拡大予定 (2019年2月1日リリース)

Figure 1.4. Global primary plastics waste generation, 1950 - 2015<sup>98</sup>



Source: Adapted from Geyer, Jambeck, and Law, 2017

## 「住宅用太陽光発電システムに起因した住宅の火災事故に注意！」(2019年1月28日)

消費者庁調査報告書(2019年1月28日)

「消費者安全法第23条第1項の規定に基づく事故等原因調査報告書/住宅用太陽光発電システムから発生した火災事故等」  
本調査報告書にて火災等の再発防止が必要とされているのは、屋根瓦一体の設置形態のうち「鋼板等なし型」

**当社の屋根瓦一体型製品**：すべて鋼板が付帯されており、火災等の再発防止が必要とされる対象ではない。

当社製品の火災に対する安全対策について、下記URLに掲載している

<https://www.kaneka-solar.jp/topics/detail.php?id=143>

当社の販売順調  
フル稼働・増産の準備を進めている

- 住宅・ビルのエネルギーマネジメントを支える各種製品をシステムとして提供
- ネット・ゼロエネルギービル(ZEB)に貢献するBIPV
- ヘテロ接合技術により変換効率世界最高を記録

### HEMS (Home Energy Management System)

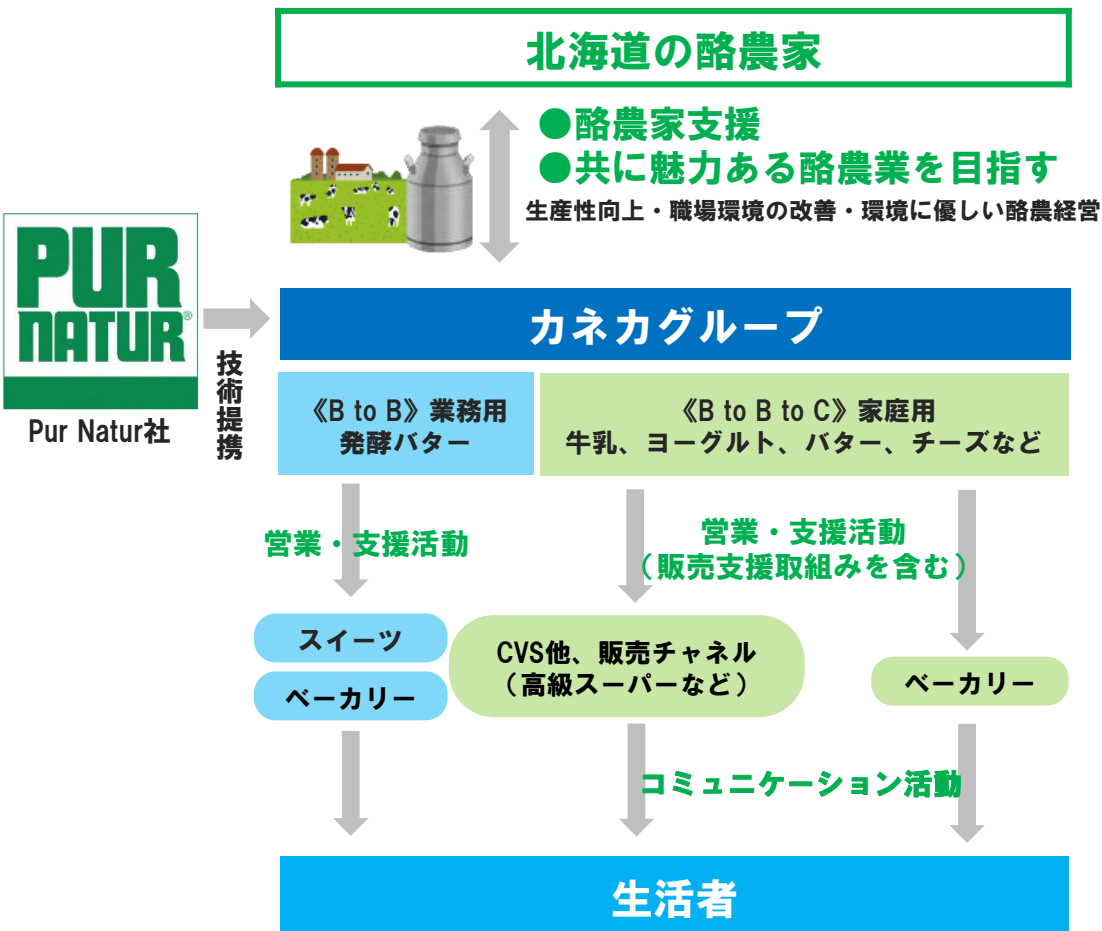
快適省エネ住宅  
カネカのお家





# 重点注力分野(乳製品事業の展開)

- 酪農から乳製品（牛乳・バターなど）の生産販売、生活者の購入までを見据え、一貫した乳製品事業を新規に展開
- 食料生産支援事業と組み合わせて、酪農家の生産性向上や循環型酪農に貢献



2018/4：牛乳（パン好きの牛乳）販売開始  
コクがあるのに後味すっきりで好評



2018/7：発酵バター販売開始

- デジタル・ネット通販・マーケティング活動を強化
- 本格的に新工場建設の検討

＜IRに関するお問い合わせ＞

株式会社 **カネカ** IR・広報部

TEL : 03-5574-8090